

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 6月10日 更新

事務事業名		勤労青少年ホーム運営事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也	
	施策	20	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	村上 優太	
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供				所属班	生涯学習班	(内線)	2432	
予算科目		会計一般	款10	項5	目9	事業連番10789	法令根拠				
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)				

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	勤労青少年ホーム（御代志市民センター内）の企画運営に関する事業を行う。（昭和62年4月に御代志市民センター内に勤労青少年ホームが開館し、若者向けの講座やサークル活動が始まった。類似民間施設増加によるニーズの減少や、若者の趣味の多様化により、参加者が減少している。また、厚生労働省も勤労青少年福祉対策としては「余暇活動促進」よりもニート・フリーター対策に代表される「就労、自立支援」へ重きを置いてきている。）
（開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む）	
【業務の流れ】	講座企画、講師依頼、参加者募集、申し込み受付、講座開催
【主な予算費目】	報酬、報償費（講師謝礼）、需用費（消耗品費）、役務費
【意見や要望】	対象者から講座の種類を増やして欲しいという要望がある。
関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
① 定期講座開催（バドミントン毎週1回、料理月2回×4ヶ月×2期、フラワールームアレンジメント6回×3ヶ月×2期）② 短期講座開催（クリスマスケーキ作り講座1回、バレンタインスイーツ講座1回）		① 定期講座開催（バドミントン毎週1回、料理月2回×4ヶ月×2期、手芸講座6回×2期）② 短期講座開催 全5回	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 講座開設数	講座	短期講座の廃止による講師謝礼の削減	
イ 講座開催数	回		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)	
市民(18歳以上30歳以下の勤労青少年)		→ ア 18歳以上30歳以下人口	人
		イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)	
若者同士で交流を深め、知識や教養を高めてもらう。		→ ア 参加者数	人
		イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
出来るだけ多くの勤労青少年が講座に参加することで様々な人との交流ができると考えるので、成果指標を上記のとおりとした。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 講座		4	6	4	5	4	4	4	
	イ 回		72	83	80	70	80	80	80	
② 対象指標	ア 人		7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,200	7,200	
	イ									
③ 成果指標	ア 人		75	76	100	78	100	100	100	
	イ									
投資 入費 量	事業 費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	349	349	338	314	313	350	
	人件 費	(A) 事業費計	千円	349	349	338	314	313	350	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	9	0	9	0	
		(A)のうち時間外、特別	千円	0	0	0	0	0	0	
		正職員従事人数	人	3	3	3	1	3	0	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	120	245	110	350	110	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	480	975	437	1,442	453	0	
			千円	829	1,324	775	1,756	766	350	

事務事業名	勤労青少年ホーム運営事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の実績評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 昨年度と事業内容に大きな変化が無い為、達成できると思う。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 より多くの勤労青少年に参加してもらうために、広報の手段を考える余地がある。また若者全体の生きがいがいづくりにはまだ及ばない部分もあり、より多くの若者が参加し、仲間づくりができるようにしていく工夫が必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 勤労青少年のみを対象とするため。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 予算は講師謝金のみであり、成果を下げずに事業実施することは難しい。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在、職員が事業の企画立案から広報、申し込み等の事務手続きを行っている。それらを嘱託職員で行うことは可能であるが講座数が少ないため、嘱託職員を雇用してまで行う業務であるかどうかは疑問がある。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 施設の建設意図（勤労青少年の支援）からすると適当である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 近隣の市では指定管理者制度にて、館の管理から事業内容まで委託をしている。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

全ての講座において一定以上の参加申込があり、講座を開講することができた。これまでは各戸回覧、ホームページ、友の会登録者へのDM送付、合志市企業等連絡協議会加盟団体へのDM送付を行って募集をしていたが、今後は市内各施設にポスターを張るなど、より一層周知に努める必要がある。また、平成21年度より友の会費を活用し講座内での交流事業を行うようにしたことで、講座内での交流が深まっている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上		○																									
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												